

令和4年度学校評価報告書

令和4年3月30日

北海道教育委員会教育長 様

北海道北見柏陽高等学校長 青木 祐治

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

1 育成を目指す資質・能力に関する方針

- (1) 自ら課題を見だし、主体的に学び続けることのできる力を育成する
- (2) 互いの個性を認め、協働して解決することのできる力を育成する
- (3) 持続可能な社会の実現に向け、必要とされる発想力、的確な行動力、社会的役割を担う力を育成する

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導	○ 定期テストを廃止し、多様な評価ツールと観点別評価を推進するとともに、授業や家庭学習が主体的に学ぶ取組となるような工夫や一人一人の学びに応じた指導により、生徒の学習意欲や学力の伸長を図ることができた。	○ 評価方法の充実が図られていることや、個を大切に指導されたことを評価する。生徒の主体的な学びを充実させるため、生徒にとっていいことは何か、それぞれの教育活動において自主性を持てるかを念頭においてもらいたい。
改善方策	・生徒の学習意欲と学力が向上するよう、教職員の研修等を充実することにより、生徒が主体的に学ぶ取組となるような指導の工夫を推進し、一層わかりやすく丁寧な授業づくりをしていく。また、状況に応じた効果的なICTの活用や、個に応じた指導方法の充実にも取り組む。	
生徒指導	○ 市民性教育に基づく、個としての在り方を身につける指導を充実させ、生徒の基本的な生活習慣の確立を図ることができた。また、コミュニケーションスキルの充実や学校いじめ防止基本方針に基づき、生徒の安心・安全な学校生活を送るための組織的な取り組みを行うことができた。	○ 柏陽祭や学校説明会での生徒の主体的な運営がみられる各種学校行事が行えたことを評価する。部活動のあり方について、「時間」ではなく、「生徒のために」より良い指導者との出会いとなるような仕組みとなることを期待する。
改善方策	・学校生活について、校則見直し委員会や生徒会の活動の取り組みの充実により、生徒の主体性を育む教育活動を一層推進するとともにボランティア活動の機会を充実させ、生徒に自己肯定感と地域貢献の喜びを味合わせるとともに、本校生徒としての帰属意識の向上を目指す。また、生徒の面談における傾聴と対話を重視した生徒理解の充実を図る。	
キャリア 教育	○ 生徒一人一人の希望を実現するため、面談や進路指導行事を活発に行うことができた。また、小中インターンシップの実施など、異校種交流・外部連携により、生徒に学問観や職業観を育むことができた。	○ 近隣の大学への進学実績があると聞く。地元で多くの優秀な生徒が大学卒業後も残るよう、地元の良さを伝えるための教育活動の工夫について検討願う。
改善方策	・適切で効果的な情報提供を目指し、各種検査・模試を活用した進路指導の工夫に努め、「自ら考え」、「自ら学ぶ」姿勢を育む取り組みを推進する。探究活動や外部との連携、遺稿集交流を活発に行い、生徒に広い視野を身につけさせる。	
学校経営 全般	○ 授業や部活動などの教育活動を通じ、保護者や地域、関係機関との連携を強め、「開かれた学校づくり」を推進することができた。	○ 物事へのアプローチはたくさんあることやおおらかであることを大切に教育活動の推進を願う。
改善方策	・本校が、生徒にどのような資質・能力を育てようとしているのか、生徒や保護者、地域にしっかりと伝え、保護者や地域の要望を受け止めた教育活動を行い、信頼された学校づくりを推進する。そのため、本校の教育活動の発信の方法の工夫や、各教育活動におけるPDCAサイクルを推進させる。また、個に応じた学びの支援について学校全体で組織的に取り組む。	
公表方法	・本校のホームページで公開するとともに、PTA役員会・総会等で公表する。 ・令和5年度の学校評議員会で概要報告する。	

3 添付資料

- (1) 令和4年度 北見柏陽高等学校自己評価
- (2) 令和4年度 学校関係者評価表